次期学習指導要領 教科別まとめ　　中学校 No.05

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

音楽・美術

次期学習指導要領で、どう変わる？

思いをもつことから表すまでを、一続きの学びに

中学校版



10秒でいうと　美術は発想から工夫して表すまでを「思考・判断・表現」に。鑑賞にも「技能」を示す

やさしく言うと

中学校の音楽と美術でも、思いをもつことと表すことを一続きでとらえる方向です。美術は、発想から工夫して表すまでを「思考・判断・表現」として示し、鑑賞にも「技能」を示す方向です。音楽は、知識と技能を一文で示し、身体の使い方を重視する方向です。漫画やアニメーション、映像などの表現や鑑賞も、端末を使って充実させる方向です。

中学校はいつから？

全面実施	2031年度（令和13年度）から（見込み）
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 音楽・美術のポイント　4つ
2 主な変更点　7項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　3項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　3項目
6 今からできる準備チェックリスト　6項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

芸術（音楽・図画工作・美術・書道等）の3行要約（全校種）

1. 思いをもつ・発想する段階と、工夫して表す段階を切り分けず、一続きの「思考・判断・表現」として育てる形に整理する方向です。
2. 小学校音楽の「歌唱」と「器楽」が「歌唱・器楽」にまとめる案など、区分の統合や具体的すぎる記述の見直しで、授業の組み立てが柔軟にする方向です。
3. 高校芸術科では、どの科目を選んでも芸術の全体像や意味を考える時間を設け、評価は複数の題材をまとめて総括することもできると示されました。

1 音楽・美術のポイント

4つ

1 美術は学びの向きが分かる区分に

美術では、活動そのものが目的になり、育てたい力があいまいな指導が見られるとされました。そこで「自分と美術」「生活や社会と美術」のように、学びの方向が分かる区分で整理する例が示されています。発想・構想から工夫して表すまでは、まとめて「思考・判断・表現」とする方向です。P214 P215 P216

授業では、たとえば 「生活や社会と美術」の視点で校内の案内表示をデザインし直し、使う人の声をもとに改善する、といった題材が考えられます。

2 鑑賞の技能と〔共通事項〕の見直し

美術作品から特徴を見付けたり、情報を読み取ったりする「鑑賞の技能」を示す方向です。〔共通事項〕（表現と鑑賞の両方で働く事項）には、造形の働きや美術文化などを示す方向です。中学校では、具体的すぎる記述を内容の取扱いに移すことも示されています。P216 P219

授業では、たとえば 作品の構図や色の対比を手掛かりに作者の意図を読み取り、根拠を挙げて紹介文を書く、といった授業が考えられます。

3 音楽は知識と技能を一文で、身体の使い方を重視

音楽では、知識と技能の関係をはっきりさせ、一文で示す方向です。「自分でやってわかる」ことが前提とされています。歌唱や器楽では、いろいろな歌い方や楽器に対応できる技能として、身体の使い方を重視します。中学校の鑑賞は、内容の取扱いと重なる記述を整理するとされています。P216 P219

授業では、たとえば 合唱の練習で息の使い方を変えて歌い比べ、響きの違いを言葉にしてから表現を工夫する、といった授業が考えられます。

4 漫画・アニメ・映像の学びと生成AIの扱い

漫画、アニメーション、映像などの多様なメディアによる表現と鑑賞を、端末を使って充実させる方向です。特別なソフトがなくても、撮影や描画などの基本機能で実践できることが望まれています。一方、表現の過程を安易に生成AIに任せるのは適切でないとされています。P218 P221

授業では、たとえば 端末で描いた絵を何枚も撮影してつなぎ、短いアニメーションを作って発表し合う、といった授業が考えられます。

2 主な変更点

7項目

1. 小 中 高 発想・構想から工夫して表すまでを、まるごと「思考・判断・表現」に

これまで図画工作・美術・工芸では、発想や構想は「思考・判断・表現」、材料や用具を使って工夫して表す段階は「技能」と分けていましたが、両者は続いていて違いが分かりにくいという課題がありました。次期では、発想・構想から工夫して表現するまでの流れ全体を「思考・判断・表現」として示す方向です。音楽（習得した技能を生かして工夫して表現する過程全体）や書道（構想・工夫して表現する過程全体）も同じ考え方です。P212 P214 P216

2. 評価：題材ごとに全観点を記録しなくてよい。複数題材でまとめて総括も可

短い題材でも3つの観点すべてを記録に残そうとして、総括的な評価ばかりになる実態が指摘されました。そこで、年間指導計画を踏まえ、複数の題材や単元、区分をまとめて総括的評価をしてもよいことが示されました。学習の途中で行う形成的評価（指導に生かす評価）を重視し、「思考・判断・表現」は完成作品だけでなく、歌ったり作ったりする過程の中での姿でとらえます。他者と比べるのではなく、一人一人のよさや成長を肯定的に評価することも重視するとされました。P221

3. 小 中 高 図画工作・美術：学びの方向が分かる新しい区分と〔共通事項〕の見直し

活動そのものが目的になり、育てたい力があいまいな指導が見られるため、学びの方向性が分かる区分で整理する方向です。例として、小学校図画工作は「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」、中学校美術は「自分と美術」「生活や社会と美術」が挙げられています。〔共通事項〕（表現と鑑賞の両方で働く事項）には、造形の働き、美術の働き、美術文化、工芸の伝統と文化に関する事項を示す方向です。技能は、材料や用具の特徴を生かして使うことや表現方法を追求することとして示す方向です。P215 P216 P219

4. 小 中 高 鑑賞にも「技能」を示す（図画工作・美術・工芸・書道）

鑑賞の活動を充実させるため、作品から特徴を見付けたり情報を読み取ったりする「鑑賞の技能」を示す方向です。書道では、作品や書から読み取った情報を精査することなどが鑑賞の技能になります。鑑賞を通して育てる力をはっきりさせ、表現と鑑賞を行き来する学びにつなげるねらいです。P216 P219

5. 小 中 高 音楽：知識と技能を一文で示し、「身体の使い方」を重視

子供が技能の必要性を感じ、実感を伴って理解できるよう、知識と技能の関係をはっきりさせて一文で示す方向です（「自分でやってわかる」ことが前提）。歌唱や器楽では、いろいろな歌い方や楽器に対応できる技能として身体の使い方を重視する方向です。音楽づくり／創作は小・中・高のつながりを明確にし、中・高の鑑賞は内容の取扱いと重なる記述を整理する方向です。P216 P219

6. マンガ・アニメ・ゲーム・映像など、多様な芸術や文化の学びを充実

メディア芸術（映画、漫画、アニメーション、コンピュータ等を使った芸術）や舞台芸術など、多様な芸術や文化に触れる機会を、芸術系教科だけでなく教育課程全体で充実させる方向です。図画工作・美術・工芸では端末を使った漫画・アニメーション・映像などの表現や鑑賞、発表・展示を発達の段階に応じて充実させる方向です。特別なソフトウェアがなくても、端末の撮影・記録や描画・加工といった基本機能で実践できることが望まれています。P218

7. 生成AIは「ツール」として。表現の過程を安易に任せない

デジタル学習基盤の活用には生成AIも含まれますが、表現する過程を安易に生成AIに任せることは適切でないとされました。人間ならではの感性や身体性を土台にした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが求められます。また、子供が芸術に関する様々なコンテンツに触れる機会が多いことから、発達の段階に応じて知的財産の保護と活用に関する指導を充実させる方向です。P221

3 現行と次期の比較（新旧対照）

3項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
図画工作・美術・工芸の「思考・判断・表現」と「技能」の線引き	発想や構想をする段階は「思考・判断・表現」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けている。	発想や構想をし、**工夫して表現するまで**のつながり**全体**を「思考・判断・表現」として示す。 P212 P214
書道の指導事項の示し方	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書と鑑賞のそれぞれの事項で、字形や全体の構成などを具体的に示している。	**〔共通事項〕**で「**書を構成する要素**などの働き・関係」として整理し、学校の実態に応じて柔軟に指導できるようにする。 P219
学習評価（総括のしかた）	短い題材でも3観点すべてを評価しようとして記録に残す評価だけになったり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価したりする実態がある。	複数の題材・単元・区分で**まとめて総括的評価**をしてもよい。**形成的評価**を重視し、思考・判断・表現は**学習の過程**の中の姿でとらえる。 P221

4 授業時数

小・中学校の音楽・図画工作・美術の具体的な時数は本文に示されていない（総論では、新教科・領域の時数を確保するため小3以上の教科等から一律3～4%程度を減じるが、現在35コマ以下の教科等からは減じないとし、具体の数値は今後示すとしている。P79）。高校は各科目4新単位とする案で、必履修教科ごとの合計が3新単位以下になる減単は不可のため、芸術（音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰのいずれか）は減単不可とすべきとされた（P47）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. AIの進化の中での芸術の意義
AIの進化などで正解のない問いに向き合う力が求められる中、人間の本来的な能力として芸術の学びの意義が改めて示されています。 P212

2. 生成AIも使うが、表現する過程を安易に委ねない
デジタル学習基盤の活用には生成AIも含みますが、表現する過程などを安易に生成AIに任せることは適切ではないとされています。発達の段階を考え、人間ならではの感性や身体性をもとにした創造的な表現を大切にし、ツールとして適切に使うことが重要です。 P221

3. デジタルの効果的な活用
鑑賞での作品比較・意見共有・遠隔交流、表現での試行錯誤や記録・保存などに、デジタル学習基盤を生かします。漫画・アニメーション・映像などのメディアによる表現や鑑賞も充実させ、特別なソフトがなくても撮影・描画・加工などの基本機能で端末を活用することが望まれています。 P216 P218 P221

6 今からできる準備チェックリスト

6項目

- [ ] 今すぐ 年間指導計画を見て、短い題材ごとに3観点すべてを記録している所を洗い出し、複数の題材・単元・区分をまとめて総括する組み合わせを検討します。 P221
- [ ] 今すぐ 歌ったり作ったりしている途中の姿を写真・録音・録画で残す仕組みをつくり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価しない形に近づけます。記録は学校・教育委員会の情報セキュリティ方針に従い、承認済みの学習用フォルダに閲覧者を限って保存し、顔や氏名は必要以上に記録せず、保存期間が過ぎたら削除します。校外に公開する場合は、本人・保護者への説明と同意、著作権・肖像への配慮を経て行います。 P221
- [ ] 告示まで 図画工作・美術・書道の鑑賞で、作品から特徴を見付ける・情報を読み取るといった「鑑賞の技能」を、どんな姿で見取るかを教科会で言葉にしておきます。 P216 P219

- [ ] 告示まで 生成AIの扱いについて「表現する過程を安易に任せない」「使うならツールとして」という線引きを教科内でそろえ、他人の作品やキャラクターを扱うときの知的財産の指導も題材の中に位置付けます。P221
- [ ] 告示まで 地域の文化施設や専門的な人材との連携を見直し、どの資質・能力を育てるための連携かを学校側で明確にしてから、年間計画に位置付けます。P220
- [ ] 先行実施まで 端末の撮影・記録、描画・加工といった基本機能だけでできる漫画・アニメーション・映像の題材を1つ開発し、校内展示やオンラインでの発表の場もあわせて計画します。P218

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中2　1単位時間（50分）

粘土が動き出す！端末で10秒コマ撮りアニメ

学校端末の基本機能で、撮って・見て・撮り直す。動きの感じを試行錯誤で追いかけます。

手順・ワークシート

ねらい

伝えたい動きの感じを主題としてもち、粘土の形や動かす間隔を工夫してコマ撮りアニメーションに表すとともに、友達の作品から動きを感じさせる特徴を見付けて自分の表現に生かす。

流れ

- 5分 先生が見本アニメ2本を続けて見せ、「どちらが弾んで見える？それはなぜ？」と問います。生徒の意見から、1コマごとに動かす間隔を変えると速さや重さの感じが変わることを確かめます。
- 8分 一人一人が「ゆっくり伸びる」「重そうに転がる」「びっくりして跳ねる」など伝えたい動きの感じを決め、3コマのラフをアイデアスケッチにかきます。ペアでどちらの案を撮るか、または2つをつなげるかを決めます。
- 20分 端末を固定し、粘土を少しずつ動かしながら連続して撮影します。数コマ撮るごとに再生して確かめ、思った感じにならないところは間隔や形を変えて撮り直します。先生は机間指導で「どこで重さを感じさせたい？」などと問いかけます。
- 10分 2組で作品を見せ合う途中鑑賞をします。見る側は「どのコマで動きの感じが伝わったか」「もっと伝えるならどこを変えるか」を具体的に伝え、作り手はメモします。
- 7分 もらった意見をもとに一部を撮り直し、振り返りシートに工夫したことと次に試したいことを書きます。完成途中の作品は学習用フォルダに保存します。

評価

思考・判断・表現は、アイデアスケッチから撮り直しまでの過程（途中の再生・修正の様子、振り返りシート）で見取り、完成作品だけで判断しません。鑑賞では、友達の作品から動きを感じさせる特徴を具体的に見付けて言葉にできているかを見ます。この時間は形成的評価を中心にし、題材の終わりやほかの題材とあわせて総括します。

8 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編**
https://www.mext.go.jp/content/20220419-mxt_kyoiku02-100002608_06.pdf

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_007.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

サイトで最新版を見る

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）